

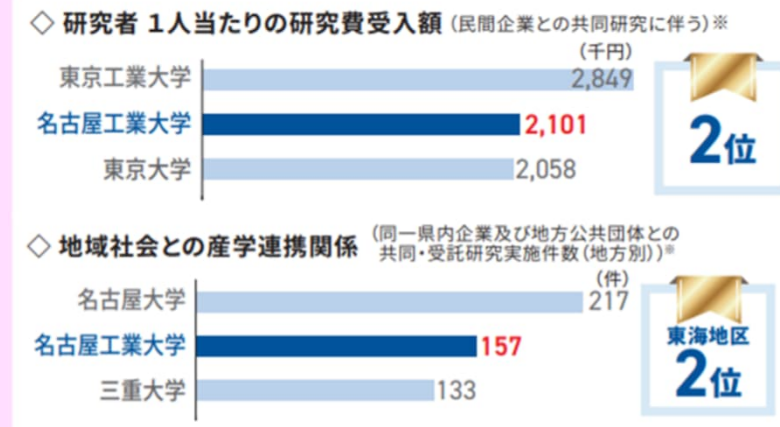
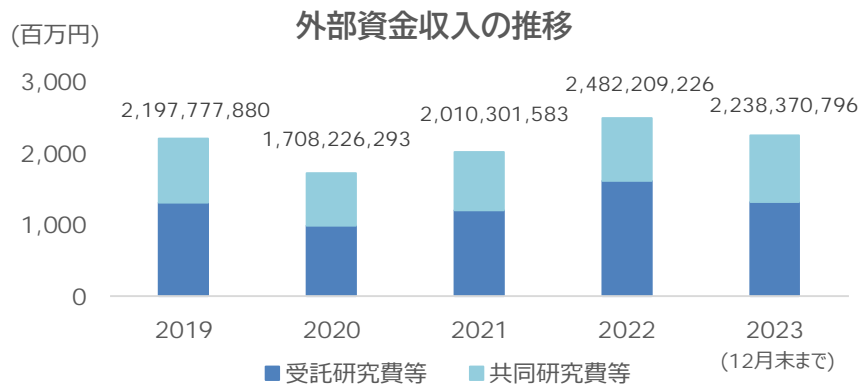
戦略1 社会共創

未来社会の創造に貢献します。
～地域とのパートナーシップ、研究成果の還元～

蓄積された先進的かつ高度な本学の研究成果をステークホルダーの要請と期待に沿って共創的に活用・展開し、社会変革を支える工学技術の構築を先導します。

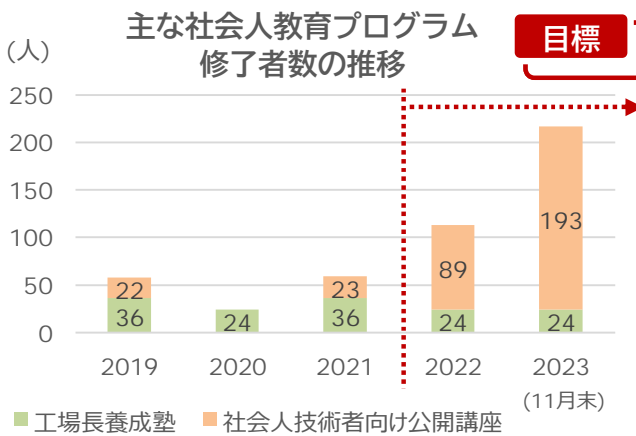
<2023年度の取組状況>

- ステークホルダーとの対話を通じて**社会の課題を発見し**、その解決に向けて研究成果の社会実装に向けた研究開発を進め、**社会変革につながるイノベーションの創出を目指します**。これらの成果として、**外部資金収入を確保**することにより、法人経営の安定化につなげていきます。



※全国の大学等対象1,078機関における2021年度の実績の順位。文部科学省「令和3年度 大学等における産学連携等実施状況について」2023年(令和5年)2月10日公表。

- 大学に蓄積された研究成果・知見を社会に還元するため、リカレント／リスキリング教育の場を提供することにより技術系人材を養成し、**地域産業の生産性向上・雇用の創出**につなげていきます。



目標 2022～2027年度 期間累計 480名以上

- <その他(2023年度実績)>
- ・3D-CAD設計技術者講座：12名
 - ・ロボット・AI・IoT導入及びサイバーセキュリティ対策 専門人材育成講座(名古屋市との連携)：34名
 - ・実践事業創成講座(2022年度から新設)：16名
 - ・木造住宅の耐震リフォーム達人塾：1,557名

- 車載高信頼通信の試験認証機関設置に不可欠なパワーエレクトロニクス分野のEMC(電磁波による機能障害)評価や対策技術等を有する**大同大学**と新たに包括連携協定を締結しました。



ステークホルダー会議委員による所見【戦略1】

- 昨年の会議で、他大学との比較で外部資金の1人当たりの額を出したらどうですかという話をしたら、出てきた数字が東大よりも多く、アピールにつながるというと思う。
- 社会人教育プログラムに関連して、研究センターのようなところでの取組が社会実装に結びついていくのがすごく大事だと思う。
- 車載高信頼通信について、日本は国際標準の取得とかそういうところがなかなか強くないので、そういったところにも力を入れられるとよい。
- 今回の災害で北川先生のインスタントハウスがたくさん報道で取り上げられ、社会貢献に役立っているというのが目に見えてよく分かったので、大変いい取組だと思っている。
- 今後もいろいろな技術が社会実装されるといいと思うし、今度はそれを経営にのせていくというところも大学としてフォローできるような体制が取られるといいと思う。

- スタートアップの関係でいろいろな事業をやっている中で、女性の学生対象のスタートアップ関連の事業として、今年度30人程度の女性の方に集まっていたらいいかなと思っている。
- インスタントハウス以外にも、ドローンや公共事業の検査などを束にして、「こういうことができるかも」という、スタートアップの芽になるような事例を集めて見せるようなことをされていたか。
- 最後は企業が稼いでいくという話がゴールかもしれないが、それを大学の経営にどう生かせるのかという、両方がWin-Winになれる仕組みを我々が皆さんと一緒にやっていく上で考えていかなければいけないと思っている。
- 当地域では事業承継、環境変化に伴う業態転換の要請に悩む中堅中小企業が多く存在しており、リカレント・リスキリング教育による人材育成はその社会課題解決の一助になり得る取組と考える。是非とも継続して欲しい。

2023年度実績【戦略1 社会共創】

✓「イノベーションハブ」機能の強化

ステークホルダーと情報・意識の共有を図りつつ、共創的イノベーションの創出に取り組んだ。

連携・協力に関する協定の締結

・双方の研究能力及び人材を活かし、連携・協力を強化するため、名古屋大学医学部・大学院医学系研究科と2023年4月3日付で基本協定書を締結した。本協定により、実学と共創を推進し、医工連携における最先端の研究開発領域でのさらなる飛躍と人材育成を目指す。

・相互の連携・協力を強化するため、大同大学と2023年11月13日付で基本協定書を締結した。本協定の締結により、相互のリソースを活用しながら、自動運転に不可欠な高信頼通信に関する研究の促進や車載高信頼通信の試験認証機関設置に向けた活動をより一層加速させる。

名古屋工業大学レポートの発行

本学の価値や存在意義を広くステークホルダーに理解・共感いただくため、2023年10月に「名古屋工業大学レポート」を発行及び大学公式ウェブサイトにて公開した。

大学公式ウェブサイトリニューアルの検討

閲覧者視点に立ち、ステークホルダーにもわかりやすい、ウェブアクセシビリティに優れかつプレゼンスの高いページとなるよう、2024年度にサイトリニューアルを行うために、全体的な内容の見直しを図り、サイトリニューアルコンセプト案を検討・作成した。

教育研究活動報告会の実施

本学の大学改革・教育研究活動、及び毎事業年度決算について、学生、保護者、同窓生、産業界、地域の方々と情報・意識の共有を図りながら、より一層の理解・支持を得るため、2023年12月に実施した。当該報告会は大学公式ウェブサイトにてアーカイブ配信したほか、広くステークホルダーから意見を聴取できるようフォームを同サイト上に設置した。

キャンパスミーティングの実施

学長等と学生が直接意見交換を行うことができる場として、2023年度は「イノベーティブなキャンパスに求めるもの」をテーマにキャンパスミーティングを9月に開催し、学長、理事、副学長ら大学執行部と学部生、大学院生、留学生ら40名が対話を行った。授業・学習面では、芸術分野授業の拡充にかかる概要を教えてほしいとの意見や英語による授業の拡充を求める意見等が出された。意見や要望に対して、学長をはじめとする大学執行部から直接、アートとテクノロジーの融合により心の豊かさや創造性を育む教育内容及びそれを実現するためのアートフルキャンパス構想について説明するとともに、英語による授業について、シラバスの英語化やシラバスに即した授業の実施を改めて担当教員に依頼した。

産学官金連携による外部資金収入の確保

産学官金連携機構の主導の下、民間企業との共同研究の推進、組織的大型連携プロジェクトの企画立案と支援、大型共用設備の活用等に取り組んだ。これらの取組の結果として、2023年12月末時点で以下の外部資金収入の獲得につなげることができたほか、138件の受託試験を実施した。

- ・受託研究費等：1,307,721,807円（117件）【2022年度：1,601,171,495円（113件）】
- ・共同研究費：901,256,989円（317件）【2022年度：881,037,731円（329件）】
- ・産学協同研究講座：29,392,000円（5件）【2022年度：35,616,000円（6件）】

※数字は2023年12月末時点

✓地域産業界リカレント教育の充実

地域中小企業人材の育成に資するため、社会人教育プログラムを以下のとおり充実させた。

- ・工場長養成塾：24名
- ・3D-CAD設計技術者講座：12名
- ・社会人技術者向け公開講座：193名
- ・ロボット・AI・IoT導入及びサイバーセキュリティ対策 専門人材育成講座（名古屋市との連携）：34名
- ・実践事業創成講座（2022年度から新設）：16名
（本講座で身につけた知識やスキルを修了証明として明示できるよう、国際標準規格のデジタルバッジである「オープンバッジ」を導入し、優秀な成果をおさめた4名の受講生に同バッジを授与した。）
- ・木造住宅の耐震リフォーム達人塾：1,557名

※人数は2023年度の受講者数

✓高信頼通信ネットワーク教育研究拠点の形成

デジタル社会を支える通信、特にその高信頼化の研究を实践するイノベーションハブの実現を目指し、2021年1月に設置した未来通信研究センターが中心となって研究拠点形成の取組を推進した。

テストハウスの開設

2023年4月よりテストハウス活動を立ち上げ、11月末現在で学術指導契約は3件契約締結済み、テストハウスを利用した企業数は11社となった。民間企業との共同研究、受託研究、学術指導の総額は3,320万円、受託試験（車載通信規格適合試験）は半期で260万円（通期で520万円の見込み）であり、総額3,840万円と、目標の2,000万円を大きく上回った。

研究面での成果

JASPAR（Japan Automotive Software Platform and Architecture）との連名で、IEEE802標準化委員会において5件、IEEE-SA（Standard Association）の国際会議において2件、標準化審議の発表（寄書）を実施した。新たなモビリティ通信分野としてドローン応用（ドローン間コネクテッド）を提案し、JST（科学技術振興機構）のKプログラム（経済安全保障重要技術育成プログラム）に代表機関として採択された。

（テーマ名：96GHzミリ波帯電波によるマルチスタティックイメージング技術）

技術の社会実装を実現できる人材の育成

自動運転車の実用化時代を見据えた高信頼通信や電気電子機器の信頼性における標準化研究に精通し、国際標準規格を策定することのできるルールメイキング人材を育成するべく、2022年度から大学院博士後期課程工学専攻に「高信頼通信ルールメイキング人材育成特別履修コース」を設置し、2023年度は、7名（2022年度は3名）の学生が当該コースを履修した。今年度は博士学位授与者1名を輩出する予定である。